

平成30年度 学校評価シート①

八峰町立峰浜小学校

評価項目	学習指導
------	------

重点目標	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善により，確かな学力を培う	P
現 状	前年度の県学習状況調査では，教科合計では全学年で県平均を上回ったが，6年国語，社会の2教科はわずかではあるが下回った。	
具体的な目標	○教師の切り込み力を鍛えて「つながる学び合い」を「深い学び」に結び付けていく。 ○県学習状況調査で全学年・全教科で県平均を上回ることを目指す。	
目標達成のための方策	○「つながる学び合い」を基盤とした教師の切り込み力の育成 ○後半重視型である「峰小授業スタイル」の共通実践 ○ICTを活用した分かる授業の構築 ○教師による「見合う授業」の積み重ね	

具体的な取組状況	○教師全員が「見合う授業」として授業を公開し，教師同士が意見交換しながら「つながる学び合い」と「教師の切り込み」に絞って研鑽してきた。 ○3学期は，子どもが一つ上の学年の授業を「見合う」ことで，児童自身にも「つながる学び合い」を意識させている。 ○本年度は文科省指定の「次世代の教育情報化推進事業」として，ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善に取り組んできた。 ○家庭学習をきめ細やかに指導し，家庭学習の質の向上に努めた。	D
達成状況	○県学習状況調査では全学年・全教科で県平均を上回る良好な結果であった。 ○児童へのアンケートでは，95%の児童が「授業が分かり，楽しい」と肯定的回答をしている。 ○「見合う授業」やICT公開研究会への取組を通して，教師間で気軽に相談やアドバイスがなされる同僚性が発揮された。	

自己評価	(評価) A	県学習状況調査で全学年・全教科で県平均を上回る目標を達成できた。「峰小授業スタイル」を意識した共通実践が為されており，「深い学び」を目指そうとする意識や取組が教師間に見られる。	C
------	-----------	--	---

↑ 評価基準 ↓
 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	教師同士が「見合う授業」などを行って授業改善を行う取組が着実になされている。参観した授業では，子どもたちが元気に話し合い，様々な考えを認め合っていた。教師の授業力の向上が，子どもの確かな学力の定着に繋がり，目標とした県学習状況調査で全学年・全教科で県平均を上回る状況を実現している。	C
------------	---	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	今後も「見合う授業」等を通して，教師間で授業力の向上に向けて研鑽していく。特に，子どもの分からない，間違いが生かされる授業を行い，子どもが問い子どもが答える学び合いを目指していく。また，今年度更新されたICT機器の有効活用に努め，楽しく，分かる授業を構築していく。学力保証するための取組を継続していく。	A
-----------------------	---	---

平成30年度 学校評価シート②

八峰町立峰浜小学校

評価項目	生徒指導
------	------

重点目標	「居場所づくり」と「絆づくり」を通して楽しい学校をつくる		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校，長期欠席ゼロ ・昨年度いじめ報告8件（初期段階で解決済） 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートで「学校が楽しい」と答える児童が90%を超えることを目指す。 ○いじめやトラブルへの初期対応が適切に為され，長期化・悪化が防がれている状態を目指す。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○Q U等の調査を活用した児童理解・把握 ○「誠意はスピード」を合い言葉にした迅速な組織的対応 ○縦割り班活動，異年齢集団活動の推進 ○望ましい集団をつくる児童会活動の充実，児童主体の実践活動 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月生活アンケートを実施し，いじめやトラブルの早期把握に努め，教育相談を通して早期解決を図ってきた。 ○Q U調査を2回実施して児童の変容を把握し，気になる児童に関しては，「児童を語る会」で協議してきた。 ○縦割り班活動を清掃等の日常的な活動に位置付けるとともに，児童会企画のフレンドリーダー等で異年齢集団で活動する機会を設けてきた。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートでは「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童は99.1%である。保護者アンケートでも「自分の子が学校へ行くのが楽しいと言っている」に96.5%が肯定的な回答をしている。 ○1月末段階でいじめ報告5件あり，全て初期の段階で解決できた。 ○Q U調査では，学級生活満足群の出現率がどの学年も向上しているものの，64%～100%と学年間の差がある。 		
自己評価	(評価) B	統合3年目で環境の変化に伴う統合ギャップはクリアできた。「学校が楽しい」と答える児童が90%を超える目標は達成できたが，Q U調査で学校生活不満足群に属する児童もあり，どの子にとっても楽しい学校づくりが課題である。	C
<p style="text-align: center;">↑ 評価基準 ↓</p> <p style="text-align: center;">A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが，目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず，目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	A	学校が楽しくないと言えることも大切。全ての児童がいつでも100%楽しいと思えることは難しい。徐々に楽しいと思えるようになればよい。小さなトラブルが大きないじめにつながらないように，初期対応できるシステムが機能しているので，現状で十分に目標を達成していると判断する。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	今後も，いじめや不登校を出さない，どの子にとっても自分の居場所と友達との絆を実感できる学校づくり，学級づくりを継続していく。特に，生徒指導が機能した授業を積み重ね，子ども一人一人のよさを認め会える集団づくりに努めていく。また，学級活動や児童会活動で，子どもたちのアイデアを引き出し，自ら楽しい学校をつくっていく取組に力を入れていく。		

平成30年度 学校評価シート③

八峰町立峰浜小学校

評価項目	ふるさとキャリア
------	----------

重点目標	ふるさとに根ざした活動を通してキャリア教育を充実させる	P				
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの指定を受け、地域連携の体制が整えられてきている。 ・地域の課題を探究したり地域貢献したりする面が弱い。 					
具体的な目標	○地域の教育力を生かした多様な体験活動や調査活動を通して、ふるさとのよさとともに地域の課題に気づき、地域に貢献しようとする意識を高める。					
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間を中心に、峰浜地区の特産品の生産状況を探究する学習を充実させる。 ○地域の人から学ぶ・触れ合う機会を通して、自分の生き方を考えさせる。 ○新聞を活用し、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心を高める。 					
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生は、果樹農家の協力で梨の栽培について調査し、幟を創って「峰浜梨街道」をアピールした。 ○4年生は、町観光協会の協力でラベンダーを乾燥させてサシェを作り、んめもの祭りで販売することで祭りを大いに盛り上げた。 ○5年生は、JA青年部の協力で内荒巻で稲作を行い、収穫した米を八峰町関東ふるさと会の方々に郷土の米として届けた。 ○6年生は、保護者の協力で蕎麦の栽培に挑戦し、石川そばをんめもの祭りでPRしたり、パンフレットを作成して修学旅行の際に仙台の観光客にPRしたりした。 	D				
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○県学習状況調査の意識調査で「地域のためになる活動に進んで取り組んでみたいと思う」強い肯定回答が、4年88.5%(県62.2%)、5年85.7%(県56.2%)、6年84.0%(県54.4%)と高い。 ○全国学力調査(6年生対象)の意識調査で「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」肯定的回答が、84.0%(県76.9%、国63.8%)で、昨年度(57.1%)より確実に向上した。 					
自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">(評価)</td> <td style="width: 85%;">地域の人材や産業を生かして地域の方々と触れ合う活動を通して、子どもたちの地域への愛着と貢献意識の醸成につながった。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> </tr> </table>	(評価)	地域の人材や産業を生かして地域の方々と触れ合う活動を通して、子どもたちの地域への愛着と貢献意識の醸成につながった。	A		C
(評価)	地域の人材や産業を生かして地域の方々と触れ合う活動を通して、子どもたちの地域への愛着と貢献意識の醸成につながった。					
A						
↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない						
学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">A</td> <td style="width: 85%;">3年峰浜梨、4年ラベンダー、5年稲作、6年石川そばと地域に根ざした特色ある取組が行われ、地域の人との様々な関わりが生み出されている。子どもたちに、地域の為に何かをしたいという貢献意識が育っており、十分に目標を達成していると判断する。</td> </tr> </table>	A	3年峰浜梨、4年ラベンダー、5年稲作、6年石川そばと地域に根ざした特色ある取組が行われ、地域の人との様々な関わりが生み出されている。子どもたちに、地域の為に何かをしたいという貢献意識が育っており、十分に目標を達成していると判断する。	C		
A	3年峰浜梨、4年ラベンダー、5年稲作、6年石川そばと地域に根ざした特色ある取組が行われ、地域の人との様々な関わりが生み出されている。子どもたちに、地域の為に何かをしたいという貢献意識が育っており、十分に目標を達成していると判断する。					
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	今後も、体験から課題を見付け、深く地域課題を探究し、子どもなりの貢献活動を行う一連の活動を充実させていく。その過程で、地域の人との関わりやコミュニケーションの場を多く設定し、地域で自分が役立っていることに気付くことができるようにしていく。また、関わった地域の方々の声も聞き、それを広めることで、コミュニティ・スクールとしての地域ぐるみの取組に繋げていきたい。	A				